

第 35 回反核医師のつどい in 東京 アピール

2024 年 10 月、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）にノーベル平和賞が授与されました。授賞理由として、核兵器廃絶運動における被爆者の貢献を評価することと同時に、被爆 80 年を前に核戦争のリスクが最大限に高まっている現状に警鐘を鳴らす意図が示されています。2025 年 7 月には日本被団協と原水爆禁止日本協議会（日本原水協）、原水爆禁止日本国民会議（原水禁）は、三者初の共同アピールを発表し、核兵器廃絶に向けた国民的な取り組みを呼びかけました。

この 1 年は激動の時代でした。世界ではアメリカやロシアなどの大国の力による支配の動きが強まり、2025 年 6 月にはアメリカ・イスラエルがイランの核関連施設を攻撃しました。環境に目を向けると、自然災害が頻発する中、7 月にはカムチャツカ半島を震源とする地震が発生し、日本の太平洋沿岸にも津波が到達しました。それにもかかわらず、日本海側の核発電所の再稼働や新增設が推し進められ、世界でも核発電への回帰が起こっています。国内では 7 月の参議院議員選挙で、核共有や拡大核抑止を推進する候補者が乱立し、「核武装がもっとも安上がり」と発言する候補が当選する事態にまで陥りました。私たちが、核による健康被害や環境汚染という事実についてあらためて広く発信し、核廃絶に向けた世論形成の再構築に取り組まなければならないと痛感します。

今年 3 月、核兵器禁止条約（TPNW）の第 3 回締約国会議に、反核医師の会から若手医師と医学生が参加しました。会議では核抑止論のリスクや、ジェンダー、気候危機、経済、教育などあらゆる分野で核を批判していくという考え方が共有され、核廃絶への具体的なプロセスを確認しました。日本から参加した市民団体や、核戦争防止国際医師会議（IPPNW）の医学生とも交流し、今回のつどいや今年 10 月に長崎で開催される第 24 回 IPPNW 世界大会にも続くつながりができています。

今回のつどいは、「被爆 80 年 反核平和運動・被爆者支援・被爆医療の歴史を学び継承しよう」をテーマに開催しました。継承の具体的な取り組みとして、ABC for Peace（いっぽプロジェクト）によるプレ企画では、反核医師の会に所属する医師、広島で長年被爆者支援に取り組んできた相談員から学ぶ学習会も行いました。今年 9 月には、学生部会が自ら企画した、日本の加害の歴史に向き合うフィールドワークも予定しています。多忙な医療現場や大学生活に身を置きながら、核廃絶や平和についての思いを共有し、お互いを尊重し合いながら学ぶことができる場があることは、若い世代にとっても魅力になっています。

ノーベル平和賞の授賞演説において、日本被団協代表委員の田中熙巳さんは「10 年先には直接の体験者としての証言ができるのは数人になるかもしれません。これからは、私たちがやってきた運動を、次の世代のみなさんが、工夫して築いていくことを期待しています」と発言されています。世界の誰にも、同じ思いを味わわせないためにと行動してきた被爆者の方々の運動と意志を引き継ぎ、医師・医学者・医療介護従事者として、世界中のあらゆる世代、立場の人々とも連帯し、核なき世界に向けた行動を続けていきます。

2025 年 8 月 31 日

第 35 回核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい in 東京
参加者一同